

的確な支援が経済発展へ

豪州に学ぶ

ダイバーシティ

自治体国際化協会・多文化共生部報告 2



オーストラリアは多くの外国人出身者を受け入れ、経済発展が著しい。彼らを原動力の一つとして技術・投資を呼び寄せ、経済面でダイバーシティを成功させている。OECD（経済協力開発機構）が発表している加盟35カ国の2018年の平均年収ランキングでは、日本が19位だったのに対し、オーストラリアは7位で、豊かな社会を築き上げている。文化共生施策を進めている中でもビクトリア州



AMES内の教室で英語を学ぶ生徒

多文化共生のサポーター

同州の多文化共生施策の担い手の一つが非営利団体「AMES (Adult Migrant English Services) Australia」だ。AMESは、移民や難民に対して英語教育から生活全般までトータルな支援を行う組織で、メルボルンでは750人のボランティアと700人のボランティアが年間5万人にサービスを提供している。オフィスには複数の教室とカウンセリングルームが併設されており、高度な技術を持った移民を対象とした英語教室では生徒の活気に満ちている。就職を目指す企業から英語力が問われるため、真剣そのものだ。

AMESの移住者へのサポートは多岐にわたっており、雇用、地域参加のサポートなど入国前から八つの段階で提供している。対象も技能系労働者やエンジニアら高度人材、そしてその家族と幅広い。具体的には、①入国に必要なビザ取得や資格、英語能力など生活するための事前審査とニーズ調

査②入国時の空港への迎え③住居や子どもの学校など生活基盤のサポートと社会保障などのサービスの紹介④法律・習慣などのオリエンテーション⑤英語・労働スキルの教育⑥雇用の確保などをを行う。

移住する外国人が生活基盤を整えるためのサポートはこれらの六つだが、⑦移民がコミュニティになじむための娯楽を通じた支援プログラムを紹介⑧地元地域コミュニティの参加者に育

成する支援——など、さらに丁寧なサービスもっている。しかも、こうした八つの段階を個々の状況に応じて進めており、素早く終える人も時間をかけて終了する人も支援から外さない。このため、多くの外国人から「移住のハードルが低くなる」と評価が高い。

このサポートについて、AMESのキャス・スカースCEOは「私たちはこの支援を“New arrival's journey”と呼び、一連の流れで行うことに大きな価値があると考えている。しかし、こうした

サポートはAMESで始めた。地方自治体は当然のこと、企業や警察、地域の団体などのネットワークが重要な役割を果たしている」と語る。

技術系移民への支援

オーストラリアには、エンジニアだけでなくIT関係や医師なども含めて技術系移民として「経済に貢献する技術を持つ」と政府に認められた移住者が多い。しかし、彼らを調査したところ、職探しや就業に困難を感じている人が少なくないことがわかった。そこでAMESでは数年前から技術系移民のための新たなサービスを提供し、AMESでは、個々の技術・資格にあった雇用の支援を行うことにより速やかに雇用のミスマッチが解消され、60億豪ドルの経済効果を生み出していると考えている。

また、家族に対して、英語力の必要性の説明やオンラインコースの内容など至れり尽くせりも展開している。様々なバックグラウンドを持つ人が集まる場所を「多文化ハブ」として用意。会議室の貸し出しのほか、移民向けにヨガ、空手、英会話教室などを原則無料で開催し、海外から移住した人と地域住民の交流の場としての役割を担っている。

ビクトリア州